

〔論 文〕

大学生の就職活動における 自己PR 文産出に必要な事項に関する検討

崎 濱 秀 行

I はじめに

本研究の目的は、大学生の就職活動において産出することが多いと思われる自己PR文について検討を加えることである。特に、就職活動において企業から内定を得られた学生の文章に焦点を当て、文章産出の初期段階（以下、添削前と記述）において産出された文章と、修正等を経て実際に企業から内定を得られた際に提出した書類中の文章（以下、添削後と記述）との比較を行った上、その違いを検討する。加えて、自己PR文に対する企業人事担当者の着眼点についても検討を加える。

情報化社会の進展、インターネットの普及に伴い、情報「発信」をする機会が格段に増加した。とりわけ、書くことを通じての情報発信の機会が増加している。今後の社会を見据え、学校教育でも「書く」活動は各教科において重視されており、それらを通じて「生きる力」、中でも、「思考力」「判断力」「表現力」の育成が強く求められている（文部科学省、2008a, 2008b, 2010）。

一方、高等教育課程においては、初等・中等教育のような「生きる力の育成」といった動きは政策としては見られない。しかしながら、言語表現力の育成を重視する動きは以前から見られた。たとえば小野（1998）は、文章産出教育を基礎教育の中の1つの科目として取り入れる大学が年々増加していることを指摘しているし、私学高等教育研究所（2003）は、大学で勉学を支えるための日本語表現法、アカデミック・スキルズの導入教育など、広義の「日本語」の教育

が、ほとんどの大学で何らかの形で実施されていることを述べている。中でも、今後の情報化社会に対応するため、客観的事実や状況を正確に伝える、あるいは自分の意見や意図を筋道立てて述べるような、情報伝達型の文章の産出スキル育成の重要性に関する指摘（崎濱、2013；吉倉、1997, 1999）がなされている。

このように、初等教育段階から高等教育課程に至るまで書くことが重視されているが、本稿では高等教育課程の学生を対象とする。学生生活の中で文章産出が必要となる、あるいは求められる場面を考えてみると、レポート作成、卒業論文（あるいは課題研究等）、何らかの学習活動を伴う場合が多い。しかしながら、多くの学生が最終学年において直面するであろう、就職活動の場面においても文章産出が求められる。その中身は様々であるが、多くの場合、活動の初期の段階で自己PR文の産出が求められる。自己PR文は就職活動を進める上で重要な意味を持つ。なぜならば、実際に応募した企業等への採否に結びつくからである。また、企業に採用されて給与を得ることが、大学を卒業後に社会生活を営む上でも極めて重要であることから、自己PR文産出は必要不可欠である。

ところで、自己PR文の産出字数をみると、200字～300字程度と極めて短い。それゆえに、情報を正確に、的確に、分かりやすく、効率よく組み立てて伝えることが重要になるであろう。すなわち、崎濱（2005）が指摘するように、必要な情報を効率よく用いてエッセンスの詰まった文章を書くことが重要になると言え、そのためには、内容（情報）の取捨選択、内容（情

報) 同士のつながりを検討することが重要であろう。また、崎濱(2003)では、文章産出スキルの高い書き手の方が「読み手の興味・関心」に関するメタ認知活動度合いが高いと評価されていたことから、読み手を意識することも重要であると言える。

このように、文章産出活動の各下位活動を効率的に遂行し、簡潔で重要な情報が詰まった、かつ、読み手を意識した文章の産出が必要になる。その中でも、文章中に記載する内容(情報)の取捨選択、あるいは、取捨選択に至る以前に、どのような内容(情報)を書き手の長期記憶内から検索する必要があるのかという点が重要な役割を果たす。本稿においては、上記のうち、どのような内容(情報)を検索、選択する必要があるのか、という点に焦点を当てる。

自己PR文中に必要な内容を検討する上では、実際に企業から内定を得た学生が産出した文章を検討することが一つの方法となる。しかしながら、書き手は自身で文章の修正を行っていること、あるいは第三者に産出文章のチェック(添削)を受けていることが考えられる。そのため、文章産出活動初期における産出文章についても検討の対象とし、両者を比較することで、自己PR文産出に際して必要な情報が明確になるものと考えられる。そこで、本稿では、実際に就職内定を得た学生の自己PR文について、添削前と添削後のものとを比較し、その違いについて検討を加えることとする。ただし、ただ内定を得た学生の産出文章を比較検討するのみならず、企業の人事担当者がどのような側面を評価対象としていたのかについても検討の対象とする。そのことで、自己PR文産出に必要な事項をより明確にできるであろう。

II 方法および手続き

1. 材料

本稿では、添削前/添削後の自己PR文の比較検討を行うため、主に坂本(2013)に記載された自己PR文を分析対象として用いた。また、企業人事担当者の自己PR文評価観点を検討するため、キャリアデザインプロジェクト(2013)中に記載された人事の評価観点を分析対象として用いた。

2. 各文献における分析対象者および対象文章数

企業人事担当者 7名

大学生(企業から内定を得られた学生) 30名
(大学生の文章は、添削前30編、添削後30編、計60編)

3. 手続き

就職活動に関する文献に記載されている、①人事担当者のコメント、②内定者の添削前/添削後の文章をデータベース化した。その上で、データベース化した文章について、TRUSTIAを用いた分析(主題分析および係り受けに関する分析)を行った。なお、分析対象となった文章はいずれも、2015年版(2015年3月に大学を卒業予定の学生の就職活動用)に記載されているものばかりである。添削前/添削後の産出文章における産出字数についてはSPSSVer.19.0を用いて分析を行った。本稿で用いた添削後の文章について、どのような機関でどのような添削(あるいはコメント)を受けたのかについては分析対象としない。

デンドログラム表示	分類名	文書数	信頼度(%)	代表語句	類似度
	自分	3	75	自分/思考/当社/問題/合格	0.876584
	参考	2	100	参考/内定/差別/他/子	0.430003
	努力	2	50	努力/悩み/同い/協調性/協調	0.270546

図1 人事担当者コメントのデンドログラム

Ⅲ 結果と考察

1. 人事担当者のコメントの分析 (主題分類)

TRUSTIAによる主題分析を行った結果、「自分 (n=3)」「参考 (n=2)」「努力 (n=2)」の3つの分類に集約された(結果は図1参照。また、各々の分類に含まれるコメントについては表1参照)。

以上を踏まえると、以下のことが考えられる。

まず、「自分」においては、「何かに挑戦した

り、自分自身を改革したり…」「[「当社の魅力は？課題は？」という設問では～(中略)～自分が自ら“調べ”“分析”している学生はやはり好感もてる]」「自分にどんな能力があり、それを実証する経験を備え、その能力が当社でどのようにいかされるのかまで、本人が自覚しアピールしてくる学生」のように、自身で何かに取り組む姿勢を持っている、自身の力を実証する、といった傾向を持つ学生の自己PR文を採用していることが伺える。

「参考」では、「就職本、WEBサイトなどで見

表1 人事担当者コメント(キャリアデザインプロジェクト, 2013)

「自分」(N=3)

採用試験では、凄いな経験や実績をアピールする学生が合格するわけではない。例えば、誰もが経験するような一見、平凡なアルバイトやサークル活動でも、その中で常に問題意識を持って取り組んでいた、何かに挑戦したり、自分自身を改革したりと、ビジネス社会でも再現可能な“良い思考・行動パターン”が備わっている学生を、評価するようにしている。エントリーシートを読んでいると、学生は大きく2つに大別できる。「行動を起こしている学生」と「起こしていない学生」。例えば、志望動機に関しても、「会社説明会での社員の話に共感したから」「御社の〇〇商品のファンなので」といった、誰でも言えること、一夜漬けで言えることが書かれてある学生は、「行動を起こしていない」タイプの学生。「行動を起こしている学生」は、志望企業に積極的にOB訪問したり、インターンシップをしたり、その他にも深く広く調べ上げている。当然、行動を起こしている学生から合格していく。

「当社の魅力は？課題は？」という設問では、大抵の学生の回答は、自分が“感じた”印象を述べているだけである。そうではなく、自分が自ら“調べ”“分析”している学生は、やはり好感もてる。この質問では学生の思考力、問題意識をみているので、単なる印象を述べるだけのような、浅はかな学生は合格しづらい。

「この学生を採用する当社のメリット」を瞬時に連想させてくれる学生は、即合格。具体的に言えば、自分にどんな能力があり、それを実証する経験を備え、その能力が当社でどのようにいかされるのかまで、本人が自覚しアピールしてくる学生。

「参考」(N=2)

エントリーシートを読んでいると痛感するのは、本当に驚くほどどれも似たりよったりだということ。きっと就職勉強会や、就職本、WEBサイトなどで見聞きする模範回答を読んで、それを参考にしているのだろう。参考にすることは言わない。参考の仕方を工夫して欲しい。重要なのは「差別化」、つまり、他の学生とは違う魅力をいかに打ち出すかということ。だから、内定者たちの内定事例を読んで、それを踏まえながらそれとは似ないような、自分ならではの「ウリ」を伝えて欲しい。

採用試験の可否に学歴は関係しますか？という質問をよく受ける。可否の参考材料の1つにすることは間違いない。ただ、学生に伝えたいのは、学歴のハンデを乗り越えたいのなら、そのハンデを乗り越える他のセールスポイントを備えて欲しい。実際、試験で第一志望に入れなかった悔しさをバネにして、大学中にいろいろなことに挑戦しすばらしい実績を備えてきたことをアピールし、そして内定をとった学生は少なくない。

「努力」(N=2)

ところどころ文字をマジックで太くしたり、線をひいたり、またイラストを描いたり、写真を貼ったりして紙面の見栄えを工夫する学生が近年増えてきたと思う。それはそれで悪いことではないが、肝心のアピールの中身(経験そのものや、ものの考え方、教養など)が薄っぺらいままだと合格は難しい。伝える中身を充実させる努力をもっとして欲しい。

「あなたの強みは？」の問いに、アピールしている能力が協調性や人の気持ちがわかるというレベルの回答だと合格は厳しい。強みは、ビジネスの現場で活かせる性質のものを求めている。リーダーシップだったり、起業マインドだったり、成果に対する執着心などなど。

聞きする模範解答を読んで、それを参考にして
いるのだろう。～(中略)～自分ならではの「ウ
リ」を伝えて欲しい」など、自身のセールスポイ
ントになる部分を示すことの必要性を挙げている
ことが伺える。

「努力」では、「伝える中身を充実させる努力
をもっとして欲しい」など、記載内容に関わる
事項を挙げていることが伺える。

これらの点を踏まえると、3つの分類が得ら
れてはいるものの、その中身はおおむね、伝え
る中身(特に、自身の物事に取り組む姿勢、自
身の持つ力およびその力の実証等)に関するこ

とで構成されると考えられる。

2. 大学生の添削前/添削後の文章の分析結果

1) 産出字数に関する比較検討

添削前/添削後の産出文章について比較検討
を行った。まず、添削前の産出文章における平
均文字数は131.73字(SD=6.28)、添削後の平均
文字数は140.17字(SD=9.74)であった。添削
前/添削後の産出字数についてt検定を行った
ところ、 $t_{29}=-4.48$ ($p<.001$) となり、添削後の産
出文字数の方が多かった。ただし、実際の産出

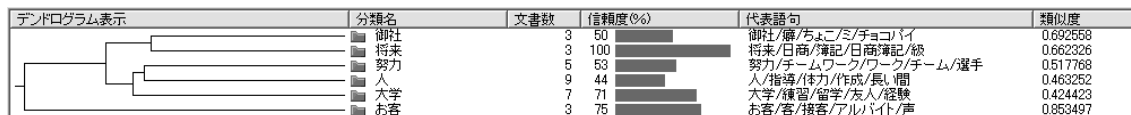


図2 添削前文章デンドログラム

表2 添削前文章 各分類における産出文章一例

「御社」 授業では、レポートの提出が頻繁にありました。私は文章を書くのが好きなほうなので、素早く仕上げることができます。決められていた期日前に提出したこともあり、教授からは、早くていいねとほめられました。御社でも、すべてのことにおいて、早めに前倒して仕事を頑張ります。
「将来」 私は、将来事務の仕事に就きたくて、学生時代から、アルバイトでも会計を率先して行っていました。資格も、日商簿記検定2級を取り、漢字技能検定も2級まで取得しました。私は、常に新しいことに挑戦し続ける強い好奇心を持っています。また、任された仕事は必ず最後までやり通します。
「努力」 ラグビー部でマネジャーとして選手を支え、優勝まで導きました。様々な雑用をこなし、時には居残りをすることもあり、陰ながら努力をしていました。いつも私は選手の一員となって試合に臨んでおり、選手の顔色を見て欲しているものを即座に当てることもできます。
「人」 アルバイトは、塾の講師をしていました。生徒からは、優しくて頼りがいがある先生と評判でした。相談を持ちかけられることも多く、どんな志望校に入りたいのか、親身になって相談にのりました。わからないことがあれば、居残りをしてマンツーマン指導も行ないました。
「大学」 私は踊ることが大好きです。踊りとは言っても徳島の阿波踊りですが、6歳から始めて、今でも地元に戻って踊ります。大学の授業で日本の伝統文化の講義の際、教授から依頼され、実際に踊って紹介したこともあります。また、大学3年の春にイギリスの大学に短期留学した際も、みんなの前で踊りました。
「お客」 学生時代、服屋さんでアルバイトをしていました。様々なお客様がいらっしゃり、時には全身コーディネートを依頼されたこともあり。お客様の顔を見て、その方に似合う色の服をお勧めすることもできます。また、その方の体形や、肌の色などを見て、印象に合った服を用意することもできます。

文字数には個人差があり、添削前/添削後を比較して、文字数が増加した場合、文字数が減少した場合、文字数にほぼ変化のない場合が見られた。

2) 添削前文章の主題分析

内定者の添削前/添削後の文章について比較検討するため、主題分析を行った。図2は、添削前の文章に関する主題分析の結果(デンドログラム)である。TRUSTIAによる分析の結果、「御社」「将来」「努力」「人」「大学」「お客」の6

分類が得られた(各分類における産出文章は表2参照)。

3) 添削後文章の主題分析

図3は、添削後の文章に関する主題分析の結果(デンドログラム)である。TRUSTIAによる分析の結果、「練習」「会社」「年」「結果」「先生」「将来」の6分類が得られた(各分類における産出文章は表3参照。なお、表2の文章と表3の文章については、分類名は異なるが、同一人物が産出したものを掲載した)。

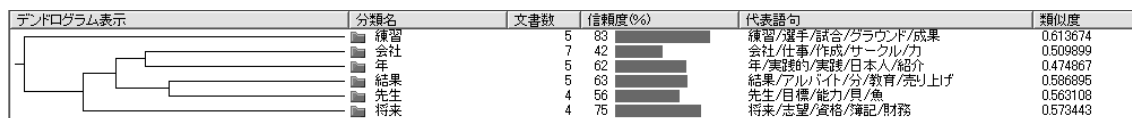


図3 添削後文章デンドログラム

表3 添削後文章 各分類における産出文章 ()内は添削前文章の分類名

「練習」

ラグビー部のマネージャーでした。選手が到着する1時間前にグラウンドに行き、練習の準備をします。選手50人それぞれに体調を聞いてまわります。その他後片付けと洗濯、試合会場の手配、各チームへの連絡を行ないます。チームが優勝したときは嬉しくて涙が出ました。私は人のために働くことが喜びです。(「努力」)

「会社」

大学時代、多くの授業でレポートの提出があり、短時間で文章を仕上げる力を身につけました。4,000字のレポートを2日で書き上げたこともあります。これは25点満点の24点でA評価を取り、教授からほめられました。私は会社でも、素早く正確に仕事をします。(「御社」)

「年」

6歳から阿波踊り連に入って練習しています。祭りの時期には、先生や仲間と大観衆の前で踊ります。大学の授業で阿波踊りを紹介するために、1人で踊ったこともあります。大学3年の春にイギリスの大学に短期留学した際は、日本人を代表し、阿波踊り仕込みの「鋼鉄の度胸」で、舞台上演しました。(「大学」)

「結果」

学生時代、服屋さんでアルバイトをしていました。店の売上アップに貢献するため、コーディネート術とセールストーク術をベテラン店員に厳しく指導していただきました。その結果、客単価を32.8%アップさせることができました。そして、社員から店のディスプレイも任されるようになりました。(「お客」)

「先生」

塾の講師のアルバイトで、目標を達成することの厳しさと喜びを学びました。私は、受け持ちの生徒の学校選びの相談から始めました。生徒の能力の少し上の学校を勧め、試験突破のために弱点を分析して個々の問題を手作りしました。「先生、受かったよ」と連絡があったときは涙が出るほど嬉しかったです。(「人」)

「将来」

私は御社の事務部門を志望します。学生時代に取得した事務の仕事に役立つ資格は、以下の通りです。

- ・簿記2級(会計伝票の記帳や財務諸表作成の知識あり)
- ・漢検2級(正確な字を書きます)
- ・MCAS(オフィス系のパソコンソフトは、素早く正確に使いこなします)(「将来」)

4) 添削前/添削後文章に関する比較検討

デンドログラムによって得られたカテゴリーおよびカテゴリー中の文章については、得られたカテゴリーの種類およびカテゴリー名が大きく異なることから、直接的な比較は難しい。しかしながら、たとえば添削前の「御社」分類中に見られた、「授業では、レポートの提出が頻繁にありました。私は文章を書くのが好きなほうなので、素早く仕上げることができます。決められていた期日前に提出したこともあり、教授からは、早くていいねとほめられました。」という文章の場合、添削後の「会社」分類においては、「大学時代、多くの授業でレポートの提出があり、短時間で文章を仕上げる力を身につけました。4,000字のレポートを2日で書き上げたこともあります。これは25点満点の24点でA評価を取り、教授からほめられました。私は会社でも、素早く正確に仕事をします。」となっている。しかも、ただ文章中の語句が変化しただけではなく、レポートを素早く(短時間で)仕上げられることについて、たとえば、4,000字のレポートを2日間で仕上げたこと、それがA評価を得たことなどを基に、より具体的に述べられている。人事担当者の評価観点として、伝える中身の充実、自分ならではの「ウリ」を伝えることの重要性等が指摘されていたが、当該文章においてはこうした観点を満たしているものと考えられる。

文章中の内容(情報)の具体性については、動詞句や係り受けの分析を通じても見られる。このうち、動詞句に焦点を当てると、添削後の文章に関する動詞句の分析において、一人あたりの文章中には複数の動詞句が見られる。また、使われている動詞句は個々によって異なるものの、ある動詞句の詳しい(具体的な)中身、またはある動詞句の状態に至るまでの過程が詳しく述べられているといった、当該動詞句の補足説明になっている文章が30例中30例見られた。たとえば、ある学生の場合、「(苦しいことでも弱音を吐かず、あきらめず、貫き通す“忍耐の精神”を) 培いました。」という自己PRがなさ

れているが、その中身として8歳から空手道場に入門して男子と一緒に突き蹴りの練習を行ったこと(肉体的にも精神的にも男子に負けない激しい努力を日常的にしてきたこと)、試合時、回し蹴りで男子をKOしたことがあることなどが挙げられている。一方、添削前の文章ではこうした当該動詞句の補足説明を行う文章は見られなかった。そのため、たとえば塾講師をしていた学生の場合、「親身になって相談に乗った」「居残りをしてマンツーマン指導も行った」といった、実際に取り組んだことのみを記載するといった形にとどまっていた。

このような結果は、係り受けに関する分析を行った際の産出文章にも見られる。

添削前の文章における係り受けトップ10のうち、上位3つに着目してみると、「声—大きい」(頻度2)、「経験—よい」「人—厳しい」(いずれも頻度1)といった形の名詞句—形容詞句の係り受けが見られた。このうち、「声—大きい」それぞれの係り受けが含まれる文章に着目すると、このような文章になっている。

私は、くだもの屋さんでアルバイトをしていました。私の声は大変大きく、道の反対側にいるお客さんにまで届きます。常に大きな声で接客をしているので、「いつも元気がいいね」とお客さんから声をかけてもらったこともあります。この大きな声と元気のよさで、御社の皆様を明るくします。

この文章については、声が大きく遠くまで届くこと、それを元気が良いと評価されることについての記述は見られる。しかしながら、人事担当者の評価観点に照らし合わせると、自身の持つ力の実証等を充分に行っているとは言えないものと考えられる。

一方、添削後の文章についての係り受けトップ10に着目すると、「ベテラン店員—厳しい」「挨拶—厳しい」「指導—厳しい」(いずれも頻度1)などが挙げられた。このうち、「ベテラン店員—厳しい」「指導—厳しい」の係り受けが含ま

Mar. 2015

大学生の就職活動における自己PR 文産出に必要な事項に関する検討

れる文章を見ると、以下のようにになっていた。

学生時代、服屋さんでアルバイトをしていました。店の売上アップに貢献するため、コーディネート術とセールストーク術をベテラン店員に厳しく指導していただきました。その結果、客単価を32.8%アップさせることができました。そして、社員から店のディスプレイも任されるようになりました。

この文章については、「ベテラン店員/指導一厳しい」という係り受けになっているが、中身を検討すると、この係り受けと関連することがら（指導していただいて実際に自分が得た力）は「コーディネート術/セールストーク術」であり、その目的は店の売上アップに貢献するためであることが記されている。また、客単価が32.8%アップしたという形で、指導を受けた結果実際に自分が得た力が具体的に示されている。

これらの点を踏まえると、大学生の自己PR 文産出の際には、自身の物事に取り組む姿勢、自身の持つ力の実証（ただし、就職後に当該の企業等で生かせるであろう力の実証）等を示す内容（情報）を選択することが重要になると考えられる。

しかしながら、本研究で分析対象として用いた文例はごく一部のものにすぎない。そのため、さらなる数の文例を取得した上で、添削前/添削後の自己PR 文の違いを検討することが求められる。また、実際の人事担当経験者にも文章の評価を求め、評価の際の評価観点と文章とを対応させた上で、大学生が就職活動時に自己PR 文を産出する際、どのような内容を記載する必要があるのか、という点について、さらなる検討が求められる。

IV 全体のまとめ

本研究では、大学生の就職活動において産出することが多いと思われる自己PR 文を題材と

し、自己PR 文産出の初期段階（添削前）の文章と、実際に内定を得た際に提出した（添削後）文章との比較を行った。また、自己PR 文に対する企業人事担当者の着眼点についても検討を加えた。その結果、企業人事担当者の評価観点に関する主題分析では「自分」「参考」「努力」の3分類が得られたが、各分類に含まれる評価観点を検討の結果、おおむね、伝える中身（特に、自身の物事に取り組む姿勢、自身の持つ力およびその力の実証等）に関することで構成されると考えられる。

次に、大学生の添削前/添削後の文章について検討を加えたところ、添削後の文章の方が、自身の持つ力等に関する記述が具体的であることが考えられる。

〔付 記〕

本研究は、平成25年度阪南大学産業経済研究所の助成研究の成果報告である。また、本研究の一部は、日本教育心理学会第46回総会において発表された。

引用文献

- 小野米一(1998) 大学生への作文教育実践語 文と教育, 12: 43-53。
- キャリアデザインプロジェクト(編)(2013a) 内定勝者 私たちはこう言った! こう書いた! 合格実例集&セオリー 2015 エントリーシート編 株式会社PHP研究所。
- 坂本直文(2013a) 何をPRしたらいいかわからない人の受かる! 自己PR作成術 日本実業出版社。
- 崎濱秀行(2003) 書き手のメタ認知的知識やメタ認知的活動が産出文章に及ぼす影響について 日本教育工学雑誌, 27(2): 105-115。
- 崎濱秀行(2005) 字数制限は、書き手の文章産出活動にとって有益であるか? 教育心理学研究, 53: 62-73。
- 崎濱秀行(2013) 文章産出スキル育成の心理学 ナカニシヤ出版。
- 私学高等教育研究所(2003) 私立大学における1年次教育の実態—「学部長調査」(平成13年度)の結果から 私学高等教育研究所調査報告書。
- 文部科学省(2008a) 中学校学習指導要領解説総則編 文部科学省。
- 文部科学省(2008b) 小学校学習指導要領解説総則編 文部科学省。
- 文部科学省(2010) 高等学校学習指導要領解説総則編

文部科学省。

参考文献

- キャリアデザインプロジェクト(編)(2013b) 内定勝者 私たちはこう言った! こう書いた! 合格実例集&セオリー 2015 面接編 株式会社PHP 研究所。
- 坂本直文(2013b) 内定者はこう話した! 面接・自己PR・志望動機 完全版 高橋書店。
- 坂本直史(2013c) 内定者はこう書いた! エントリーシート・履歴書・志望動機・自己PR完全版 高橋書店。
- 崎濱秀行(2014) 大学生の自己PR文産出に必要なこと

- がらの検討(1) 日本教育心理学会第46回総会 発表論文集:196。
- ジャストシステム(2007) 評価分析システム TRUSTIA <http://www.justsystems.com/jp/trustia> (参照日 2013.06.01)。
- 高罵悠人・宮川洋(2012) 今までなかったエントリーシート・履歴書の文章講座 壮光舎印刷株式会社。
- 坂東恭一(2013) 内定者が本当にやった究極の自己分析 '15年版 成美堂出版。
- 福沢恵子(2013) 通るエントリーシートの法則 日経HR編集部(編) 日経HR。

(2014年11月21日掲載決定)